

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500072		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地	宮崎県小林市南西方1992-14		
自己評価作成日	平成28年 6月 10日	評価結果市町村受理日	平成28年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhouyou_detail_2015_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590500072-00&PrefCd=45&Versign=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意思を尊重し、常に寄り添い、その人らしく日常生活が送れるよう援助し、身体面や精神面の観察を行いながら、初期での病状の悪化を見逃す事のないように変化を予知し、また、急変時には24時間体制での医療機関への連絡が可能となり、十分なケアが行える。早期に医療機関へ相談できる体制を整えています。日々の生活の中では、季節の旬の物を調理場が調理し、食事に取り入れてくれ、家族からの差し入れ、有志の方からの差し入れなどを頂き、その時期にしか味わえない物を多くの方の協力を頂き施設にいながらでも自宅で過ごしている時のように季節を感じながら食べて頂いています。今年は梅を頂き、「風邪を引かないようシロップ茶を飲んで寒い冬を乗り切ろう!」の目標を持って、シロップ作りを一緒に行いました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の一員として自治会に加入し、代表者が区長を担っている。積極的に地区の行事に出向き、住民との交流を重ねている。代表者や管理者は、随時、職員の見解に耳を傾け、より良い運営が行えるように努めている。特に全体の会議で協議された業務に関する内容であれば、即座に反映する体制を整えている。職員は、なじみの協賛所(お寺や美容室等)へ利用者と出向き、ホームを利用する前と変わらぬ暮らしを大切にしている。また、家族や友人、知人との関係を大切にし、つながり続けるための支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を日々、朝礼で唱和を続けることで意識も向上している。理念と共に介護目標を月毎に職員で掲げながら、利用者さま中心の介護施設を目指している。	全ての職員が、朝の朝礼時に地域密着型の意義を踏まえ作成された理念と運営方針を唱和している。代表者及び管理者は機会ある度に理念に触れ、日々の実践の中で意識づけに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で会った地域の方へのあいさつはもちろん、行事のある時は案内の声掛けも行って。また、地区のゴミ拾い等に参加させて頂いたり、入居者と地域の方との交流が少しではあるができています。	地域住民の一員として自治会に加入している。代表者が区長を担うなど、積極的に地区の行事に出向き、住民との交流を重ねている。ホームは地域活動の情報を集めると共に、地域住民と触れ合う機会に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の回覧板に「風の丘だより」を定期的に発信し、情報提供を継続して行いながら、認知症への理解を深めてもらえるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、事業所の取り組みやサービスの状況などを報告している。推進委員の方からも提案や助言を頂き、アドバイスについては、会議後に職員に報告し、実践できるように話し合う場も設けている。	運営推進会議では、全ての経過を報告し、透明性のある会議となるように努めている。外部評価の結果報告を行い、話し合いを積み重ねるなど、会議参加者の意見をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、市の担当者からアドバイスを頂いたり連絡を密に取り、相談に乗ってもらっている。	運営上の相談や地域に関する相談・報告、介護保険の情報を得るなど、市役所との協力関係を構築している。代表者及び管理者を中心に、ホームは積極的に協働関係を築いていこうと努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成しており、職員が身体拘束に対しての知識を踏まえた上で、日常生活支援に取り組んでいる。	管理者は、常に鍵をかけない暮らしの大切さを唱え、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、日々の実践の中でも考える機会を設け、意識の高い職員育成がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	援助される側、する側の心理状態が行動への対応に表れると考えており、理解力を高めることも大切である。言動・行動に対し、普段より職員同士で確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を利用されている方が入居されており、また、現在は生活保護受給者の方が入居されている。 制度について深く学ぶ機会が少ないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居後、共に十分な説明を行い、ご家族に納得して頂いた上で契約を行っている。 また、法改定の際にも説明を行い、理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の時にご家族からの意見や要望がないか、随時声掛けを行っている。 ご家族からの意見や要望については、職員と話し合い、すぐに対応できるよう努めている。	利用者本人、家族がホームに意見や要望等を表しやすいよう、雰囲気づくりに努めている。積極的な情報提供及び意見交換に努めているが、要望を外部者へ表す手段や機会が少ない。	率直な意見を表す手段として、ご意見箱の設置や家族会アンケートを実施するなど、埋もれている意見をくみ取る取組がなされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場主任が意見や要望を聞く中心的な立場にあり、集まった意見や要望については、上司と話し合う場をすぐに設け、現場の声がすぐに届く環境作りを行っている。	代表者や管理者は、随時、職員の意見に耳を傾け、より良い運営を行うように努めている。特に全体の会議で協議された業務に関する内容であれば、即座に反映する体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「家庭を第一に」と、代表者が社員に常に言っており、個人個人が無理のないシフトで働くことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しずつではあるが、研修に参加できる機会が増えてきている。参加できなかった職員にも、研修内容を報告する時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク、勉強会へ積極的に参加している。近くの施設とは、相互の行事に参加したりと交流の機会が増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学に来て頂き、利用者・職員・施設の雰囲気を確認して頂き、安心と信頼を持って入居して頂けるように配慮している。入居後は、不安や要望を聞ける環境作りを行いながら、一人ひとりと向き合えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会時に不安な事や要望等がないか、ご家族の声を聞ける時間を設けるようにしている。ご家族からの声を大事にできるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞き、日常生活の中で必要な支援を見極め、サービス機関との情報交換を行いながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に応じて、出来ることはお手伝いを頂きながら、一緒に何かをする時間を設けている。個別に散歩や買い物などに出掛けながら会話できる環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族との時間を大切にもらえるような環境作りを行い、定期的な風の丘だよりの送付、遠方の方へは現状報告と写真の送付を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、自宅より本人の馴染みのある物を持って来て頂き、安心できる環境作りを心掛けている。時には、親戚の方の家に行ったり、自宅周辺へドライブに出掛けることもある。	職員はなじみの場所(お寺や美容室等)へ利用者と出向き、ホームを利用する前と変わらぬ暮らしを大切にしている。また、家族や友人、知人との関係を大切にし、つながり続けるための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで交流を楽しめるように、二ヶ月に一度は席替えを行い、利用者同士が関わりやすい環境作りを行っている。散歩等の外出時や日常生活の中でも、利用者同士で会話が弾んでいる様子が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに来たので・・・とホームのことが忘れられずと会いに来て下さる方、喜んでもらえたらと野菜等の差し入れを持って来て下さる方、遠方の方は小林に帰ってきたからと立ち寄って下さるなど、風の丘を大事にして下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話・行動・表情等により、全てではないが、本人の意向や希望をできる限り把握できるよう努めている。	細かな情報を日々のケース記録に残し、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を大切にしている。代表者を中心に、現状が利用者にとって最良の暮らし方となるように検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より書いて頂いた「私の基本情報」を基に、これまでの生活環境を把握し、また、利用されていたサービス機関からも情報提供して頂き、支援の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録、個人記録を全職員が活用し、入居者一人ひとりの状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡などで意見や要望を汲み取り、評価は月一回作成し、定期的な評価を行いながら、本人に合った介護計画を作成している。	管理者及び介護支援専門員を軸に、担当職員によるモニタリングと再アセスメントを毎月行っている。利用者の変化や利用者本人をよく知る家族の意向、主治医等の意見を反映した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践状況を日々の個別記録に記入し、申し送り等を行いながら、職員間の情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望に合わせ、他事業所との連携により、最善の方法で要望に応えられるよう努めている。		

宮崎県小林市 グループホーム風の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見時期等では、ボランティアの方から積極的に参加の申し入れがあるなど、年間行事を通して様々なボランティアの方の協力を得ている。月一回傾聴ボランティア、絵手紙教室の方の来訪、図書の貸し出し等、地域資源の活用にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の循環器内科を協力医に持ち、医師との連携を図ることで、適切な医療・受診ができています。また、月二回の訪問診療を行っており、必要に応じ家族への連絡を行いながら、適切な医療を受けられるよう体制を整えています。	各利用者のかかりつけ医と、信頼関係を築き上げ、急変時も速やかに対応できるように努めている。利用者及び家族が希望する医療機関に受診できる体制も整えている。ホームが協力関係を結んでいる医療機関もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は、看護師は不在であるが、日常的に健康管理を行い、異常に気付いた場合は、早期にかかりつけ医と連絡を取り、かかりつけ医の指示をすぐに仰げるよう連携体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリー等を利用し、情報提供を行っている。退院前も病院へ出向き、情報をもらっており、退院後も病院関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関連事業所として、内科医院が開業し、医師と看取りについて推進している。また、重度化、終末期に向けては、協力してもらえる個人と連携していく計画もあり、支援に向けて体制強化を図っている。	契約時に重度化や終末期に関する指針を説明し、同意書も用意している。ホームは主治医や家族との話し合いを繰り返し行い、利用者、家族の希望に沿える看取りが可能となる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、職員がいつでも見られるようにしている。会議等を利用し、急変時の対応や連絡体制についても話し合う場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な総合訓練を実施しており、夜間想定訓練についても実施できている。次回は地域の方へも協力の呼びかけを行っていききたい。	年に3回、地域住民を交えた火災訓練を実施している。全職員が火災時の避難法を身につけるなどの訓練は重ねているが、地震や水害(台風含む)等に対する訓練がなされていない。	地震や水害等を含む全ての災害に対する備えを講じることを期待したい。また、地域との協力体制を整え、利用者が安心して暮らせるように努めることも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすく、ゆっくり短い言葉掛けを念頭におきながら、入居者一人ひとりの人格を尊重し、その人に応じた方言や馴染みのある言葉掛けで対応しているが、言葉使い、対応には十分な配慮を行っている。	利用者一人ひとりに応じた優しくさりげない声かけを行っている。管理者は職員の利用者に対する言葉かけや仕草等を確認し、責任ある行動がとれる職員育成に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の困難な方や難聴の方に対し、本人の行動や表現を観察しながら声掛けを行い、自己決定ができるように働きかけている。難聴の方には、ホワイトボード等を利用し、筆談を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念通り、入居者のペースに合わせ、決して無理強いしない支援を心掛け、入居者本人の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を自身で選んでもらい更衣して頂いたり、理容師の来訪の依頼等、一人ひとりの気持ちを尊重しながら、本人の希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを確認した上で、メニューの代替え等、その都度対応している。食事の盛り付けや片付け等、入居者に手伝ってもらいながら行っている。時には浅漬けなど、漬物作りにも一緒に取り組んでいる。	職員は利用者の状態に合わせ、配食サービスで届いた食事の配膳、下膳と一緒に取り組んでいる。全ての職員が弁当を食べており、利用者と同じものは食べていない。	味噌汁や小鉢等、一品からでも良いので、利用者と職員が同じものを食べ、味や香り、思いを共有できる環境を構築することを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、常にチェックする体制をとっており、入居者の体調に合わせ、水分等を調整している。また、入居者の健康状態に配慮し、おかゆやきざみ、ミキサー等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前は「あ・い・う・べー」とパタカラ体操を取り入れ、食後は、個々に合わせた歯磨き、舌のブラッシングを行い、清潔保持に努めている。就寝前には義歯を洗浄液につける等の対応も行っている。		

宮崎県小林市 グループホーム風の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方の排泄は、チェック表で一日の様子を把握し、確認が難しい利用者については、定期的な声掛けで誘導を行い、確認している。	一人ひとりの排せつ支援のあり方や現状を踏まえた上で、トイレ誘導を積極的に行っている。排せつリズムを把握するための記録も適切に残しており、羞恥心や不安にも配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、一人ひとりの排便状態を確認している。便秘の場合は、排便コントロールの調整ができるよう主治医に相談したり、水分摂取量に気をつけながら食物繊維の多い食べ物をおやつに取り入れたり配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や気持ち、その方のタイミングに合わせて支援を行っている。入浴は個別に対応できており、全身の状態等、細かな観察ができています。	随時、入浴は心がけているものの、入浴日がホームの都合で決められている。	職員の都合で曜日や時間を決めてしまわず、利用者の習慣や好みに合わせた入浴支援を行うことを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整等、一人ひとりに合わせた環境作りを行っている。夜間不眠の場合は、飲み物の提供や職員と共に過ごす等、個別な対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からもらう薬処方箋をファイルに綴じ、全職員がいつでも閲覧し、把握・確認できるようにしている。服薬介助時は、名前、日付を声に出し、職員同士で確認し、誤薬を防止できるように取り組んでいる。粉末や錠剤が飲みにくい方がおられる為、誤嚥を防止するためにも、薬の飲み方にも工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状況に合わせて、無理のないように役割を持ってできることを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩やドライブに出掛けたり、買い物では自分の欲しい物を選んで頂いて、気分転換を図っている。また、自宅外出は、家族の協力で墓参りの支援もしている。	ホームは、利用者の意向を大切にしながら日常的な外出支援を心がけている。毎日の買い物も、行きなじんだ店に足を運び、時にはドライブを兼ねて近所まで車を走らせることもある。利用者の状態や習慣、有する力を生かした外出支援に努めている。	

宮崎県小林市 グループホーム風の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の管理は難しい状況である為、施設で家族より現金を預かり、買い物等の際には職員立ち会いの下、レジにて支払いを行っている。各自の出納帳で管理を行っており、定期的に家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、家族からの電話は取り次ぎ、ゆっくり話して頂けるよう支援している。入居者の中には携帯電話を所持して使っているケースもある。遠方の方には、手紙に写真を添えて近況を報告している。季節の送り物等が届いた時には、すぐに折り返し返事をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節を感じられる目にも優しい飾りを作り、居心地の良い空間作りに努めている。	明るい光が差し込む共用空間は、自分の力でその人らしく過ごせる場となるよう工夫がなされている。五感刺激(色、光、匂い、音、広がり)に配慮し、利用者主体に考えられた使いやすい調度品を揃えている。利用者が安心して暮らせる環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に畳とソファがあり、昼寝をしたり、入居者同士で会話したりと、思い思いにくつろいで過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を自宅より持ってきて頂いたり、家族の写真や本人が作った作品を飾って、安心して過ごせる居室作りをしている。自宅より仏壇を持って来られている方もおり、仏壇に花を添えたり、希望があれば花を買って供えたりしている。	利用者の状態に合わせ、使いなじんだ家具や大切にしてきた仏壇を設えている。ホームに入るまでの暮らしを尊重し、思い出の品々や好みの物を大切に扱っている。利用者が安心できる居室環境となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が送れるように、建物内の各箇所に手すりを設置している。2つの居室にはトイレが設置されている。歩行時の動線上に物が無いよう配慮し、洗面台も入居者に合わせた高さとなっている。		